

紫溟吟社で『銀杏』創刊

しづ かわ げん じ

渋川玄耳

Shibukawa Genji



明治5年(1872)～大正15年(1926)

佐賀県武雄市生まれ

明治31年(1898)、熊本第六師団に赴任。

ジャーナリスト、俳人

第六師団法官部理事試補として来熊。正岡子規に夏目漱石の紹介を受け、漱石が五高生らと興した紫溟吟社に入会する。漱石が熊本を離れた後も、明治34年(1901)、池松迂巷らと俳誌『銀杏』を発刊し、紫溟吟社を支えた。日露戦争凱旋後、第一師団に転じ、のち朝日新聞社に社会部長として入社、投書欄、家庭欄、俳壇などを刷新する。藪野椋十と名を改めて文名を上げた。著書に『鈍語』などがある。